

## 6. むすび

本年度は、前年度に比べ、年間処理水量は0.2%、使用料回収率は14.4%増加しているが、有収率は1.3%減少している。

経営成績については、営業損失が191,133千円生じているが、これは、営業収益が前年度より9.7%増加したが、営業費用のうち管渠費の中で委託料、工事請負費が増加し、管路の更新により除却した資産が前年度より約74,000千円増加したことが要因となっている。

営業収支比率は前年度82.6%であったが、今年度は84.0%と上昇しており、今後も引き続き伸びることを期待する。営業外収益及び特別利益は536,980千円、営業外費用及び特別損失が82,709千円であり、当年度純利益は263,138千円となっている。また、資金収支は、本年度実質収支額300,482千円であるが、単年度収支は40,956千円である。

<今後の事業運営にあたり、以下の意見を申し添えます。>

1. 下水道使用料については、今後の処理水量の増加を期待したいところであるが、管路の改築等の工事に係る費用に加え、流域下水道への建設負担金など、安定した事業を運営するうえでは厳しさがうかがわれる。財政状態では、流動比率が88.0%で前年度と比較すれば9.2%増加はしているが、引き続きの企業努力が必要である。
2. 営業未収金については、本年度末残高は180,835千円で、前年度末残高より5%減少しているが、引き続き徴収率の向上に努めてほしい。
3. 下水道事業の公営企業会計への移行で3年目となったが、今後もさらに財政マネジメントや経営基盤の強化を図ることを期待している。